

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。*のついた説明は出題者が加えたものです。)

武會勤は会社を定年退職し、のんびり隠居生活を送っていた。そこに、会社勤めの娘・都が離婚をして孫娘・友理奈を連れて戻って来たので、一緒に生活をするようになった。以下の場面は、勤たちが友理奈を連れて海水浴に訪れているところである。

翌日もからりとよく晴れた日で、朝から太陽が眩しく輝いていた。けれど幸子にもなわれて朝食会場にあらわれた友理奈は、前日とは打って変わって元気がなかった。真つ赤に泣きはらした眼、 文字に引き結ばれたくちびる。友理奈の受けたショックを思うと、勤のこころもひりひりと痛む。

ほとんど朝食を残した友理奈は、すぐプールに行きたいと言い出した。荷物の整理をするという幸子を部屋に残し、友理奈と勤はガーデンプールに向かう。

午前中とあつてプールに客は少なく、ふたりは思うぞんぶん水遊びを楽しんだ。とくに「水中鬼ごっこ」が友理奈は気に入ったようで、きゃあきゃあ悲鳴を上げながらプールじゅうを逃げ回る。

遊んでいるうちに、すこしずつ友理奈の表情も明るくなり始め、勤はほっと胸を撫で下ろす。だが日頃の運動不足が祟ってか、三分もすると勤は息が切れてきた。友理奈を追いかけ回した足も、攀るスンゼンである。

幸子はまだか。援軍を求めてプールサイドを見回すが、それらしきすがたは見当たらない。

(中略)

びきつ、左のふくらはぎに痛みが走った。いかん。本格的に攀るまえに、すこし休まなくては。

「友理奈。ちよつと上がって休まないか」声をかける。友理奈は盛大に首を振り、

「やだ。まだ遊び始めたばかりだし」とこたえる。

そりゃあそうだよな。七歳、遊びたい盛りの友理奈にとってはこれしきの遊び、準備運動にもならないであろう。勤はすこし迷ったあと、

「じゃ、じいじはそこで見てるから。友理奈、ばあばが来るまでひとりでだいじょうぶかな」すぐわきのビーチチェアを指さした。

「だいじょうぶ」友理奈が元気よく叫ぶ。

勤はいったん水から上がり、ビーチチェアに腰かけた。友理奈の真つ赤な浮き輪は、そこからでもじゅうぶん見分けることができ、安心した勤はすこし休むことにした。

赤い浮き輪を目で追いながら、勤は昨夜、都に投げつけられた言葉を反芻(*思い出してよく考え直すこと)する。「あのとき」
都は言った。あれはなにを指すのだろう。

たいていの男がそうであるように、勤もまた、過去のことはすぐに忘れてしまふタイプだ。下手するとここ二、三年のことすら覚えていない。
A たまに幸子に「新婚時代のあのときは云々」という話をされると、よくもまあ覚えてるもんだ、感心すると同時にちよつと空想ろしくもなる。女の持つ執念深さというかしつこさに辟易(*いやになること)してしまうのだ。

B 過去にこだわってどうする。過去は過去。もう終わってしまったことであり、修正のきかないものだ。よい思い出ならともかく、嫌なこと、不快な記憶をずっと後生大事に抱いて生きていてもなんの益もなからう。

C かつての部下に、そういう性質の女性社員がいた。何年もまえの話のことあることに蒸し返し、ねちねち文句を言い、そのたび周りは振り回され疲れ切り――

「お父さん、友理ちゃんは」幸子の声で、はっともの思いから覚める。

「いるだろう、そこに」顎でプールを示す。幸子は、手で陽射しを避けながら「そこってどこよ」、プールじゅうを見回している。

「いやだからプールの」

「いないわよ」

「そんなはずはないだろう。だってついさっきまで」

「でもないわよ！」

あわてて立ち上がり、眼を凝らす。先ほどよりひとが増えている。子どもも多い。D 確かにそのなかに赤い浮き輪の友理奈はいなかった。

ざつ。全身から血の気が引いた。幸子は早くも、「友理ちゃん、友理ちゃん」叫びながらプールサイドを回り始めている。

「どうしました」監視員の若い男が幸子に声をかけた。幸子が事情を説明している。ここは幸子に任せ、勤はべつの場所を探すことにする。

ウォータースライダー、幼児用プール、トイレ。

更衣室、シャワー室、プールに隣接した土産物店。

④ 勤は攣りかけた足のことも忘れ、走りに走った。だがどこにも友理奈のすがたはない。

幸子が蒼白な顔で駆け寄ってきた。

「見た覚えはあるけど、どこに行ったかわからないって。いま、他のひとに水から上がってもらって、沈んでないか調べるって」

「沈んでないか」そのひとで、目の前がまっ白になった。

勤はプールに駆け戻る。ちょうど全員がプールから出たところで、監視員が数名、地上から探したり、潜水して調べたりしていた。

心臓が肋骨から飛び出そうなほど激しく打っている。手足が冷たくなり、震えが止まらない。

監視員のひとりが手でおおきく「×」を作った。つづいてほかの者もそれに倣う。幸子に声をかけた監視員が、「プールのなかにはいません。ほかを探してみましよう」と言い、勤も幸子も腰が抜けるほどほっとした。だが安心するのはまだ早い。

「プールにいないとなると」幸子のことを最後まで待たず、勤はハイビスカスの咲き乱れる小道に向かって走り出した。海だ。きつと友理奈は海にいる。

「友理奈！」「友理ちゃんん！」

浜辺で声を限りに友理奈を呼ぶ。なにごとかと幾人かが振り向いた。

「母さんは浜辺を探せ。おれは海を見てくる」勤のことはに幸子は頷き、パラソルのしたをひとつひとつ、検め始めた。

勤は海を見やる。今日も波は荒く、「遊泳禁止」の立札が出ている。勤は恐怖で全身が粟立つのを感じる。

赤い浮き輪。赤い浮き輪はないか。

白い波頭が砕ける海を、血走った眼で勤は見渡す。プイの内側では数人の若者がはしゃいでいるだけで、友理奈らしき子どもはいない。

胸を撫で下ろしつつ、つぎに波打ちぎわを見て回る。友理奈と同年代か、それより幼い子が多い。幾度か「友理奈！」、見つけたかと思っただが、似たようなすがたかたちをした別人だった。

ひと通り歩いたが、やはり友理奈はいない。幸子とは見ると、片端から「こんな女の子をみませんでしたか」、聞いてまわっていた。どこ行っちゃまったんだ友理奈。髪の毛を掻きむしりながら勤は呻く。プールにも海にもビーチにもいない。

あとは。あとは。

そのとき勤の脳裏に、昨夜のパーベキューで友理奈と都がかわしていた会話がよみがえった。

『これ貝でしょ。あさりみたいに砂のなかにいるの』

『ううん、岩場にくつついてんの』

⑥ どうか。勤は血走った眼でビーチの両端を見る。向かって右はコンクリートの突堤だが、左には磯遊びのできそうな岩礁があった。熱い砂を蹴立て、勤は岩礁に走った。

黒い、ごつごつ尖った岩が、ちいさな入り江をかたちづくるように並んでいる。そのいちばん奥のほう、海に突き出した岩場のうえに、しゃがみこみ、海中を眺めている友理奈のすがたがあった。

驚かしてはいけない。足でも滑らせたらいっカンの終わりだ。勤は焦るじぶんに言い聞かせ、なるたけのんびりと、

「友理奈、友理奈」声をかけた。 I 友理奈が振り向く。

「あ、じいじ」

「なにやってるんだい」

「あのね、アワビ探してた」

やはり。勤はせいっぱいの笑顔を浮かべ、「そうかそうか。いまじいじも行くからな。そこを動くんじゃないぞ」やさしく諭す。

友理奈は II 頷いた。

一歩、また一歩、勤は友理奈に近づいていく。あと一歩。あと半歩。

と、巨大な波が友理奈の背後に持ち上がる。

「友理奈」叫んで勤は友理奈の細い腕を掴み、じぶんの胸に引き寄せた。大波は、ちょうどいままで友理奈の立っていた岩場を舐め

III 引いて行った。

「どしたのじいじ。なんでそんな怖い顔してんの」友理奈が勤を見上げ、不思議そうな顔をする。

「なんでもない。さあプールに戻ろう。ばあばも待ってる」

「うん」

友理奈は元気よくこたえると、岩場をびよんびよん飛び跳ねて砂浜に戻り、置いてある浮き輪を手にとった。空いたほうの手で、勤の手を IV 握りしめる。握り合った手を振りながら、友理奈が先にたち、砂浜を歩いてゆく。その友理奈のすがたに、三十年前の都のすがたが重なった。

(中澤日菜子「PTAグランパー」による)

問1 — 線①「幸子」は本文中で何と呼ばれているか。二種類の呼び方をぬき出して答えなさい。

問2 — 線②「文字」の□に当てはまる漢字一字を答えなさい。

問3 ―線③「幸子はまだか」とあるが、この時の「勤」の気持ちとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 幸子に友理奈との遊び相手をかわって欲しいと思っている。
- ロ 幸子に友理奈と遊んで攀った足を手当して欲しいと思っている。
- ハ 幸子にはしゃぎすぎている友理奈をしかって欲しいと思っている。
- ニ 幸子に自分と一緒に友理奈と鬼ごっこをして欲しいと思っている。

問4

A

D

 に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。(同じ記号は二度使えない。)

- イ そういえば ロ そもそも ハ だが ニ だから

問5 ―線④「勤は攀りかけた足のこと忘れ、走りに走った」とあるが、この時の「勤」の気持ちとしてふさわしくないものを、次の中から二つ選んで記号で答えなさい。

- イ 焦り^{あせ} ロ 怒り ハ 絶望 ニ 必死 ホ 不安 ヘ 夢中

問6 ―線⑤「勤も幸子も腰が抜けるほどほっとした」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 友理奈が他の場所で元気に遊んでいるということが分かったから。
- ロ 友理奈が無事であることが監視員のサインによって分かったから。
- ハ 友理奈がプールに沈んでいる可能性はないと分かったから。
- ニ 友理奈がプールを出て海に行っていたことが分かったから。

問7 ―線⑥「そうか」とあるが、「勤」が思いついた内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 友理奈はプールを出てアワビを探すために岩場に行ったのだろう。
- ロ 友理奈は岩場で磯遊びをするためにプールをぬけだしたのだろう。
- ハ 友理奈は母のために危険を承知でアワビを探しに行ったのだろう。
- ニ 友理奈はビーチの横に磯遊びの出来そうな所を見つけたのだろう。

問8 I、IV に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。(同じ記号は二度使えない。)

- イ 静かに ロ すなおに ハ ぎゅつと ニ ぱつと

問9 線⑦「せいっぱいの笑顔を浮かべ」とあるが、なぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 友理奈が恐怖を感じていないとわかったから。 ロ 友理奈を見つけることができ安心したから。
ハ 友理奈を強く叱って嫌われたくなかったから。 ニ 友理奈の行動が予想通りでうれしかったから。
ホ 友理奈をあわてさせたら危ないと考えたから。

A9

問10 線⑧「岩場を舐め」とはどういうことか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 岩場を降りていくこと ロ 岩場を覆いつくすこと ハ 岩場をとび越えること ニ 岩場を無視すること

問11 線⑨「握り合った手を振りながら」からわかる「友理奈」の性格として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 好奇心旺盛 ロ 怖いもの知らず ハ 自分勝手 ニ 無邪気 ホ 無鉄砲

問12 線a「スンゼン」、b「後生」、c「イッカン」のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

A10

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。*のついた説明は出題者が加えたものです。)

厳しい競争社会を生きる私たちは、植物を見ると癒いよされます。太陽に向かって伸びていく木々や、美しい花を咲まかせる草花。ときに人間は、そんな植物のまっすぐな生き方に憧あこがれます。古今東西の偉人いじんたちは、植物のように穏やかな生き方をしたいと願ねがい、植物の生き方を人の理想と生き方のたとえに使つかいました。植物たちは、争まいのない穏やかな世界を暮くらしているように思おもえるかも知れません。しかし、本当にそうでしょうか。

① 残念ながら、そんなことはありません。自然界は② 肉食、③ 者存の世界です。それは植物の世界であっても何一つ変わらないのです。確かに、動物に比べると、植物の世界は争まいが無いように見えるかも知れません。動物は、他の生き物を食たったり、植物をむさばり食たべたりして生きています。時には牙きばをむき、角つを突き合わせて戦たたかい合あいます。それに比べれば、植物は、他の生き物の命いのちを奪うばわなくても、太陽の光と土さえあれば生きていくことができます。しかし、言い換えれば、植物も太陽の光と土がなければ、生きていきません。そのため、日光や水分、③ 土壌などの資源を巡めぐって、植物どうしは激しい争まいを繰くりり広ひろげているのです。植物が上へ上へと伸びて、枝や葉を茂しげらせるのも、少しでも他の植物よりも有利に日光を浴あびるためです。もし、この競争に敗まれて、他の植物の陰かげに甘あまんじてしまえば、十分な光合成をすることはできません。森の中などに入ると、屋根が覆おいかぶさっているように、上の方だけに葉が集あまっています。森の下の方は日が当たらないので、葉がなくなってしまうのです。森の下から上を見上げてみると、ちょうど④ ジクソーパズルのように、 ようにして、空間を埋うめ尽くつくしています。こうして植物たちは光を巡めぐって空間を奪うばい合あいながら、森を形成せいせいしているのです。

土の中の見えない戦たたかいは、さらに熾し烈れつを極まめます。植物は水や栄養分を吸すうするために、土の中に根ねっこを張り巡めぐらせますが、他の植物の根ねっこも伸びてきます。そして、限りある土の中の水分や栄養分を、奪うばい合あっているのです。

セイタカアワダチソウという北アメリカ原産の帰化雑草があります。セイタカアワダチソウは、根から出す毒性物質によって、ライバルとなるまわりの植物の芽生えや生育を抑制よけいせいします。こうして、他の植物を駆逐くつきして、一面に大繁殖たいはんじよくするのです。かつては猛威もういを振ふるつたセイタカアワダチソウですが、⑤ 最近では、一時ほどの勢いきほいがなくなっているように見えます。これは、どうしてでしょうか。この原因の一つは「自家中毒」にあると言いわれています。セイタカアワダチソウは、毒性のある化学物質でまわりの植物を次々に駆逐くつきしていきましました。ところが、他の植物がなくなると、セイタカアワダチソウの毒は、セイタカアワダチソウ自身みづかみに影響えいぎやうして、自らの成長まで妨さまたげるようになってしまったのです。激しい競争をしているにもかかわらず、独ひとりり勝ちは許ゆるされません。こうして、たくさんの種類の植物が共存きゆうぞんして、バランスを保たもちながら、自然界を形成せいせいしています。自然界というのは、すごいものです。

植物の戦たたかいは、植物どうしのもものだけではありません。さまざまな生き物が、植物をエサにしています。害虫も植物をエサにしようとやってきました。しかし、動けない植物は逃にげることができません。そのため植物は、毒成分や苦味成分などを体たに蓄たくわえて、害虫に食くべられないように防御ぼうぎよします。植物がさまざまな薬効成分や毒成分を含あんでいるのは、そのためです。しかし、植物は、戦たたかい続ける中で、ある変化をしました。それが、⑥ 「食くべられて成功する」ということです。

植物は受粉をするために、花粉を作ります。大昔の植物は、すべて花粉を風に乗せて運はぶ風媒花ふうばいかでした。しかし、風まかせで花粉を運はぶ方法は、いかに⑦ 効率こうりつです。どこに花粉が運はべられるかわからない方法では、他の花粉に花粉がたどりつく可能性は高いとは言いえませんが。そのため、風媒花は花粉を大量に作らなければならないのです。おそらくは、恐竜時代の終わりころのことです。

- A そして、この偶然をきっかけにして、植物は昆虫に花粉を運ばせるようになったのです。
- B あるとき、その大量の花粉を餌にするために、昆虫が花にやってきました。
- C ところが、そのうち、昆虫が体に花粉をつけたまま、次の花へと移動して、受粉が行われるようになりました。
- D 植物の花粉を運ぶ役割を最初に担ったのは、コガネムシの仲間だったと考えられています。
- E これは、風で花粉を運ぶ方法に比べると、ずっと効率的です。
- F 昆虫は花から花へと、花粉を食べあさっていきます。

植物は、その後、昆虫を呼び寄せるために、花びらや甘い蜜を持つようになりました。もちろん、昆虫は花粉を運ぼうとしているわけではなく、花粉や蜜をエサにするためにやってきただけの害虫です。しかし、植物は敵である昆虫を巧みに⑧進化を遂げたのです。食べられて成功する方法は、他にもあります。被子植物は、胚珠のまわりを子房が包んでいます。子房は、種子の元になる胚珠を守る大切なものです。ところが、あるうことか、植物はこの子房を食べさせるように進化を遂げるのです。食べさせるために、子房が発達したものが果実です。動物や鳥が植物の果実を食べると、果実といっしょに種子も食べられます。種子が、動物や鳥の消化管を通り抜けて糞と一緒に排出される頃には、動物や鳥も移動しています。こうして、植物の種子は、移動をしていくのです。このように、植物は、植物を食害する動物や鳥も味方につけて W:W:W (＊両者に利益があること) の関係を築き上げています。

自然界は「肉食」、「者存」の世界です。そこには、人間社会のような、ルールも道徳心も一切ありません。すべての生物が「自分さえよければいい」と利己的に振舞い、傷つけあい、だまし合い、殺し合いながら、果てしなき戦いを繰り返しているのです。

それが自然界です。しかし、その殺伐とした自然界で植物がたどりついた境地は何だったのでしょうか。花粉を食べに来た害虫を、追い払うのではなく、昆虫に花粉を運ばせるという共に利益のあるパートナーシップを築きました。さらに動物や鳥との戦いでは、子房や種子の食害を防ぐのではなく、子房を肥大させて果実を作り、食べさせることによって、種子を運ばせるようになったのです。昆虫や動物や鳥は、植物にとっては、敵でした。しかし、戦いの末に、植物は、助け合うという共存関係にたどりついたのです。この共存関係を結ぶために植物がしたことは何だったのでしょうか。昆虫との共存関係を築くために、花粉が食べられることを許し、さらには昆虫の餌となる蜜を用意しました。そして鳥や動物に種子を運んでもらうために、果物という魅力的な贈り物を先に施したのです。他の生物と共存関係を築くために植物がしたことは、自分の利益より相手の利益を優先し、「まず与える」ことでした。これが、植物が私たちに教えてくれる自然の摂理です。聖書の言葉に、「与えよ、さらば与えられん。」というものがありません。しかし、この言葉が聖書に記されるはるか以前に、植物は、この境地に達していたのです。

(稲垣栄洋「戦う植物たち」による)

問1 — 線①「そんなこと」とあるが、「そんな」の指す内容に当たる二十四字の部分本文から探し、初めと終わりの五字ずつをぬき出して答えなさい。

問2 — 線② 「□肉□食、□者□存」とあるが、それぞれ四字熟語となるよう、□に当てはまる漢字をそれぞれ次の中から一つずつ選んで書きなさい。

生 共 長 短 強 弱 適 敵

問3 — 線③ 「日光や水分、土壌などの資源を巡って、植物どうしは激しい争いを繰り返しているのです」とあるが、その結果どのようなになったか。「森」・「土」の二つの言葉を用いて二十五字以内で説明しなさい。

問4 — 線④ 「ジグソーパズルのように ようにして」とあるが、 に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ いろいろな樹木の枝葉が多く積み重なる ロ 多くの種類の樹木がそれぞれ個性を出す
ハ ささまざまな木々の枝や葉が組み合わさる ニ 多種多様な植物が互いの性質を補い合う

問5 — 線⑤ 「最近では、一時ほどの勢いがなくなっている」とあるが、セイタカアワダチソウの勢いがなくなったのはなぜか。その理由を二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問6 — 線⑥ 「食べられて成功する」とあるが、これは具体的にどういうことか。次の説明の「1」「2」に当てはまる表現を考えて、それぞれ五字以上十字以内で答えなさい。

・ 植物は、食べられることによって、昆虫に「1」「動物に「2」ようにして成功する。

問7 — 線⑦ 「□効率」とあるが、□に当てはまる漢字として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 無 ロ 非 ハ 不 ニ 未

問8 ……線で囲まれたA～Fの文を並べかえて、もとの文章にする場合、並べ方として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ B—F—C—E—A—D
ロ D—B—C—F—A—E
ハ E—B—F—D—C—A
ニ F—E—B—C—D—A

問9 ⑧に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ あざむく ロ 追い返す ハ 捕食する ニ 利用する

問10 ー線⑨「植物がたどりついた境地」とは、植物がどのようなことになったことを言うのか。次の説明の【1】・【2】に当てはまる表現を本文中から指定の字数で探し、それぞれ初めの五字をぬき出して答えなさい。

・ 【1 (二十六字)】 によって 【2 (十一字)】 を実現すること。

問11 次の中から、本文の内容と合っているものを二つ選んで記号で答えなさい。

- イ 他の植物にきちんと太陽の光が当たるよう、自分は身を引いて光を浴びず、葉がなくなる植物も存在する。
ロ 植物に薬効成分が存在しているのは、かつて他の生き物に食べられないように毒成分を蓄えたからである。
ハ 動物は生存するために戦いを繰り返しているが、植物はバランスを保つために争いを避ける傾向がある。
ニ 植物は自分の敵となる相手であっても、自分の身を差し出すことでうまく相互の関係を作り上げている。
ホ 人間社会は自然界と違って、個人がルールや道徳心を持たずに気ままに生きる傾向が強い世界と言える。

三 ③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。よみがなは現代かなづかいにしてあります。)

友人のかかわっているなんとか調査グループからアンケートの回答を頼まれた。若い女性が、こちらにチェック① ① であらうかあ、と紙を広げる。その一項に「毎日きまって何かしていますか」というのがある。朝ごはんを食べるとか、薬を飲むとか、決まったテレビ番組を見るなどは除外しますという。じゃあ例えばどんなことですかと問えば、皆様は、般若心経を唱えるとか、郷里の母に電話を入れる、犬の散歩につきあうなどなさってます、とのこと。お経もだめだし、母はとつくに亡くなったし、犬もいないし、この項目はナシで返した。

老人の暮らしの調査なのだろうが、夕方になり二階への階段を上ったところで、いつものように窓から空を見た。これが私の「毎日なさっていること」なのだが、取り立てて言うほどのことでもない。ただ、毎朝毎夕、決まって窓から空を見る。

大阪北部のわが家の西窓の真正面に見えるのは宝塚の街と山。その山上の積雲は「丹波太郎」と呼ばれる夏雲で、これが動かぬかぎり秋は来ない。梅雨明けと同時にムクムクした雲が立ちはじめ、これがビクともしなくなる。高校野球の開始の頃から敗戦記念日の頃にどっかと坐り、閉会式の頃になると少し弱ってくる。すると、中継のアナウンサーがかならず「甲子園球場にすこしばかり秋の気配がただよい、赤とんぼが飛び始めました」などという。

〈伝統の巨人・阪神戦〉というような大試合をテレビ観戦しているさ中に雨が降り出し、試合中断というとき、急ぎ窓辺に立つ。見れば南西の甲子園と思しき「あのあたり」の雲の色のひとところが黒い。いま甲子園(兵庫県西宮市)では雨なんだと見ていて、十五分くらいするとわが家(大阪府池田市)にも雨が降り始める。こんな雨はたいがい地雨になる。

その雨が甲子園球場の付近にのみ降ることがある。こちらの上空には来ないで、ある一所だけに降る外持雨、ほまち雨だ。青天の大阪の句会の席に、京都の人がひどい雨だったと遅刻して来ることなどままたまあるから、雨にも「ところにより雨」「ときどき雨」という情報があるわけだ。

それだけでなく毎日毎日、テレビや新聞の天気図の渦まきや前線を見ておれば、なんとなくあの渦がこうなったら西日本は雨になるということくらいはわかる。ところが線やマークではわかっていても外れることが多い。やはりド素人ゆえのハズレで、つつい所在の古人の言い伝えた非科学的な記憶のほうを頼りにする。

夏の午後、むくむくの雲が出ていて雨になるのは夕立だろうから、気象知識はゼロであっても、この季節、この時間、この温度、この風、という大雑把な条件の記憶を累積してゆけば、西からの雨は遮るものない平地をこのようにして来るとか、夕立はこんな風にやってくるという程度のことにはわかる。そんな「記憶の統計」がマイ天気情報としてときに役にたつ。

A ござるぞよ戸隠山の御夕立 一 茶

戸隠山を眺めて暮らしておれば、あの山がここの顔をする夕立が来るといことがわかるようになり、来るぞ来るぞ、で夕立がくるのだ。

B 夕立や水底溯る溪 飯田 蛇笏

C ちと鳴く 草にある夕立かな 高濱 虚子

ことに「夕立」の前後、「⑦」「⑧」などの小動物の動きも、観察の累積で天気を読む鍵になる。

D 祖母山も傾山も夕立かな 山口 青邨

E 乾坤に一擲くれし大夕立 安積 素顔

わが執心の夕立の句である。夕立のとき、かの窓からその降り様を見てみると、空から降ってくる雨という現象がとて^⑨あらたかなものに感じられるのだが、そんな雨風のある空域はこの世のもの、そう考える。

つまり私たちが見たり聞いたりする「気象」という二字の現象の居場所は、「天」ではなく「空」なのではないか。

F 流星の使ひきれざる空の丈 鷹羽 狩行

流星を見ることは可能だが、^⑩それを「使ひきれざる空の丈」と表現した句。この「空の丈」という大気圏、この「空の丈」がすなわち「空」であって、「空の丈」はけっして「天の丈」ではないのだ。

なぜ星は流れるの、なぜ雨や雪は降るの、なぜ春夏秋冬があるの、なぜ夏は暑い、なぜ月は毎日かたちが変わるの、子どもたちから飛んでくるそんな質問には俄か勉強で答えられても、死んだら何に乗って星まで行くの、その星が流れ星になったら転覆してまた死

んじやうの、などと聞かれると困る。子どもはそれを科学で説明しろと言っているわけではないのだからムキになる必要はないのだが、「そんなこと、知らないわよ」と言うよりは「どうなのかしらね」とでも言っておくほうがよさそうだ。

かつて日本神話がおもしろいお話であった頃、なんとなく仰ぎ見る彼方に「天」という空域があり、そこは⑪世界なのだということ不思議とも思わず信じていた。思えば、※4 天地開闢以来、科学とは無縁な時代の人々の不思議はみな「天」に起因した。なぜ雨が降るのか、なぜ雪は降るのかなど、^⑫経験則ではわかっていたろうが、この雨や雪はどういう仕組みで地上に降り来るのが不明な時代、天象一切はまことに不思議であったろう。どこから来たのかわからぬものは、みな「天」から届いたとしか極めようがなかったのだ。当時の人々にとって、山より高いところ、月星のあるところ、これが天であり空であって、これを区分することなどなかったらうと思う。罰ですら「天」からのものであった。米の一粒を粗末にすれば「食いバチ」があたり、着るものを粗末にすれば「着バチ」があたり。どこのだれがどういう仕組みでいかなるバチを下すのか、だれも知らないのに、それが「天」から下されるとなると、誤魔化しがきかない、本気でそう思っていた。「天」に恥じぬ生き方が最上であったのだ。

(宇多喜代子「俳句と歩く」による)

注 ※1 夕立(ゆうだち)と同じ ※2 あらたかな … 神秘的な

※3 使ひきれざる … 使いきれない ※4 天地開闢 … 世界の始まり

問1 ① に当てはまる正しい敬語表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ していただいてよろしい ロ させてもらったりしてよろしい
ハ してもらってよろしかった ニ させていただかれてよろしかった

問2 ② —線②「どつかと坐り」とあるが、「どつかと坐」っているのは何か。本文中から四字でぬき出して答えなさい。

問3 ③ —線③「ままある」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 偶然ある ロ 最近ある ハ 常々ある ニ 時々ある

問4 ④ —線④「むくむくの雲」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 風に流されてうろこ状になっている雲。 ロ 上空に向かって発達した大きな雲。
ハ 空中にところどころ浮かんだ小さな雲。 ニ 空全体を黒々と覆い隠している雲。

問10 — 線⑨「空から降ってくる雨という現象がとてもあらたかなものに感じられる」のはなぜか。最も適當なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 雨は我々の世界とは異なる世界から届けられているような気がするから。
- ロ 雨は神が人間にくれたありがたいめぐみだと疑いもせず信じているから。
- ハ 雨が降っているのは大気圏内であることを大人たちは理解しているから。
- ニ 雨がなぜ天から降るのか、現代人としてもいまだに不思議なことだから。

問11 ⑩に当てはまる言葉として最も適當なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ たいていは途中とちゆうで失せる ロ 肉眼にくがんで見ることほできない ハ 地上からは届かない ニ 数え切れないほどある

問12 ⑪に当てはまる言葉として最も適當なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 我々の世界とつながる ロ 我々がいつかは必ず行きつく
- ハ 我々の世界とは異なる ニ 我々の科学では説明できない

問13 — 線⑫「経験則ではわかっていたらう」とあるが、「経験則」の例として適當でないものはどれか。文章中の~~~~線イ〜ニの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 毎朝毎夕、決まって窓から空を見る
- ロ こんな雨はたいてい地雨になる
- ハ あの山がこういう顔をする夕立が来る
- ニ 小動物の動きも、觀察くわんさつの累積るいせきで天気てんきを読む鍵かぎになる

国語解答用紙

座席番号

受験番号

氏名

一

問 1

問 2

問 3

問 4
A
B
C
D

問 5

問 6

問 7

問 8
I
II
III
IV

問 9

問 10

問 11

問 12
a

b

c

二

問 1

問 2
肉食者存

問 3

問 4

問 5

問 6
2 1

問 7

問 8

三

問 11

問 9
問 10
1

2

問 1
問 2
問 3
問 4
問 5

問 6
問 7
⑦
⑧
問 8

問 10
問 11
問 12
問 13